



農大二中進路通信

令和6年5月14日(火)
第3号 農二中進路指導部

中間テストまであと1週間

中間テストまで一週間をきりました。中一生は初めての定期テストになるので、大変緊張していることでしょう。振り返れば、昨年、中2生が初めてテストを受けたときにテストのあまりの難しさに驚き、取った点数の低さに撃沈していたのを覚えています。農大二中は将来的に全国の猛者たちと戦えるように準備をしていきます。そのため、定期テストもなかなかの難易度になります。しかしながら、そのテストでしっかりと点数が取れるようになれば十分、全国模試でも点数が取れるようになりますので頑張ってください。また、定期テストでは校内の順位は出しません。校内の順位は一つの目安であって、順位がいいからと言って、安心してもらうのは困ります。仮に50点が取れて、全体で30位くらいになったとしても、点数の半分しか取れていないことが問題だということに気づいてください。つまり、順位よりも点数が重要です。どれだけ習得できたかが重要ですので、他人と比べずに純粋に習ったことを一人一人ができるようになってほしいと思います。さて、先週、中間テストの時間割が発表されました(表1と表2)。今回の中間テストは3日間の実施となり、中一生は最終日に親子進路ガイダンスがありますので予定をしておいてください。また、保護者の方も参加は自由です。都合がございましたらご参加ください。では、生徒のもみなさんはテストまでしっかりと計画を立てて学習を進めてください。



表1

| 中1 中間テスト時間割 | | | |
|-------------|----------|----------|--------------------------|
| | 5月21日(火) | 5月22日(水) | 5月23日(木) |
| 1 | 代数 | 社会 | 理科 |
| 2 | 国語 | 幾何 | 英語 |
| 3 | | | 11:00~12:10 親子進路ガイダンス |

表2

| 中2 中間テスト時間割 | | | |
|-------------|----|----|----|
| | | | |
| 1 | 社会 | 英語 | 代数 |
| 2 | 幾何 | 理科 | 国語 |

また、各教科で提出物があると思います。全員が期日までにしっかり出せるように計画的に学習を進めてください。よく、中間テストが終わってから猛スピードで終わらせて提出する人がいますが、なぜ中間テストにやらなかったのか本当に疑問に思います。その勢いでテスト前にやっていたらもっともっと点数が取れていたのではと思うことがあります。学習をしてできなかったら、それはみなさんの弱点です。しかし、やらなくてできなかったのは単にやらなかっただけです。さあ、がんばりましょう。



中1 Team Building Camp

中学1年生は5月1日(水)～2日(木)にかけて、伊香保・榛名での宿泊学習「TBC (Team Building Camp)」に行ってきました。入学して1か月が過ぎ、だんだんと学校にも慣れ新しい友人関係もできてきたこのタイミングで、さらに友人やクラス、学年の絆とチームワークを高めようという目的で様々なプログラムにチャレンジしてきました。

初日の午前は伊香保を舞台にフォトゲーニング体験です。4～5人の班で、地図と写真をヒントにチェックポイントを回り、得点を集めました。ポイントとなる場所をどう回るかは班の自由。高得点の遠い場所から攻める班や、近くのポイントで点を稼ぐ班など作戦はさまざまでした。班で協力してルートを決めたり、ポイントを探したりと、2時間近くの活動で仲良くなって戻ってくる班が多かったように感じました。温泉まんじゅうなどの食べ歩きも楽しんでいる様子でした。1位から3位までのチームは、豪華な景品をゲットしていました。午後は、榛名湖でカッターと夜はキャン



ンプファイヤーの予定でしたが…昼食後から雨が強くなり残念ながら外での活動は困難ということになりました。が、しかしピンチをチャンスに変えるのが二中御一行様。すぐさま近くの体育館を借りて、レクリエーション活動を行うことができました。学年全体でのじゃんけん鬼などにレク。二人一組になってのレク。学年全体で体を動かし、先生方も交じってクラス対抗リレーなども行いました。体育の時間に練習を積んできたフォークダンスも行うことができ、あいにくの天気ではありましたが充実した活動が行えました。



2日目は、昨日と打って変わっての晴天に恵まれました。生徒も待ちに待ったカッター体験です。前日の雨で榛名湖の水量が増えており、カッターに乗り込むのも一苦労。冷たい水に足を入れながら、何とか乗り込んで出航です。ガイドさんの説明をうけ、元気な掛け声とともにかい(オール)を動かしていきますが…やはり最初はうまくいきません。動かし方が逆な生徒、水の勢いにかいを持っていかれてしまう生徒、隣のかいとぶつかってしまう生徒、タイミングがなかなか合わない生徒など様々でした。しかし、30分もするとコツを掴んだようで、どのクラスもスイスイ進むようになりました。他のクラスに近づいて声かけなどもできるようになり、上手になると自然と表情も和らいでいく様子が印象的でした。クラス内で漕ぎ手の交代を随時行いながら、みんなで協力して休むことなく2時間近くカッターに乗り続けました。TBC最後のプログラムは榛名神社の散策です。1400年を超える歴史を持つ榛名神社をクラスごとに双龍門まで上り、そこで一旦解散です。改修工事のため全てを見ることはできませんでしたが、ところどころに現れる奇岩や滝などからパワーをもらい、澄んだ空気や木々に心を癒さ



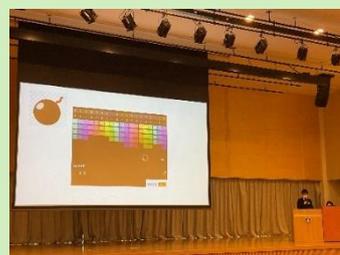
れて散策を終えました。

2日間を通して、大きなけがや体調不良者が出ることもなく、全員無事に帰ってくる事ができました。中学一年生がよいスタートを切れた証かと思います。雨で予定の変更はあったものの、自分たちで考え自分たちで楽しむ行動をとることができ、TBCは大成功で終えることができました。まだまだ学校生活は始まったばかりです。今回できた友人や守ることができたルール、みんなで協力して取り組むことの大切さなどを忘れずに、これからも二中生活を楽しんでいきましょう。

中2プログラミングコンテスト

5月1日(水)武揚ホールにて、農二中等部プログラミングコンテスト2024を実施しました。本校の中学生は、学校設定科目「ICT」でScratchやプログラミングについて1年間学習し、中学校1年生の修了時には1人1作品を仕上げました。今回は、その作品の中でも特に優れた5作品を代表作品とし、コンテストを行いました。コンテストでは出場者が5分間のプレゼンテーションを行ったのち、オーディエンスが10分間のテストプレイを行い、①作品②プログラム③プレゼンテーションの3観点において審査をする形で進められました。また、特別審査員として、本校の併設大である東京情報大学より、総合情報学部教授および東京情報大学総合情報研究所所長である松下孝太郎先生にお越しいただき、審査及び講評をいただきました。松下先生はスクラッチプログラミング事例大全集やスクラッチプログラミングゲーム大全集などを執筆されており、本戦出場生徒は予選時に松下先生からフィードバックをいただき、修正を重ねて本戦に臨みました。そして、生徒から多くの票を獲得し、最優秀賞に選ばれたのはB組の加藤悠さん、そして、審査員特別賞にC組の清水圭真さんが選ばれました。

聴衆の生徒からは「代表の人たちの堂々とした発表と作品がすごいと思いました。」「プログラミングコンテストではどれもすごいプログラミングだった。」「同級生の中にあんなゲームを作れる人がいるのかと、とてもびっくりしました。私はプログラミングが少し苦手だけど、授業にはついていけるように頑張りたいです。」など、同級生の頑張りに感動していました。授業ではICTについてみんなが同じように学びます。しかしながら、得意な人とそうでない人がいると思います。人それぞれに強みがありますが、どの分野であれ自分の強みを生かしてほしいと思います。そして、英語と同様にプログラミングも一つのツールとなります。知識や技術を高める必要はありますが、プログラミングの



知識、技術を使って、何をプログラミングするか大切です。そして、誰のために使うか、この点を忘れないでほしいと思います。これからの社会において、デジタル技術は必須です。それを使う人間がしっかり教養を高め、倫理観を持っていかなければならないと思う瞬間でした。



中2親子進路ガイダンス

5月1日(水)に中二生、保護者を対象とした親子進路ガイダンスを実施しました。「これからの将来を見据えて～親子で考える皆さんの未来～」と題し、これからの社会を生きていく生徒の将来に向け大学受験のみならず、その先のキャリアや働き方なども含めて考えるきっかけを頂き、将来活躍していくためにはどんな能力が必要か、そして、中学・高校生活で求められていることについて知ることができました。



今漠然と勉強している人もいることでしょうし、単純に良い大学に入りたいという人もいるでしょう。みなさんはまだ13年、または14年しか生きていませんので、やりたいことが明確な人はほんの一握りだと思います。では、人はどのように進路を選択していくのでしょうか？おそらく、人は自分が見聞きしたものからしか、選ばないのではないかと思います。お父さん、お母さんがお医者さんだったとき、小さいころから親の姿を見て、いつしか親のように人の役に立つ人になりたいと思う人もいるかもしれません。反対に宝塚で働きたいと言ってる人の中で、宝塚の舞台やパフォーマンスを見たことがない人がいるのでしょうか？おそらく、働きたいと思う人はなんらかのステージを見て感動し、私もそうなりたいと思ったのではないのでしょうか。つまり、それまでの体験や経験値によって職業を選んでいるのです。したがって、将来自分に一番合う職業に出会うためには今は経験値を上げること、そして、もっともっと色々なことを見たり、聞いたり、知見を広げ、自ら体験するが大事だと思います。最初は興味がないことでも、積極的に経験していく中で、面白さが発見できるかもしれません。今年度は職業人にインタビューして「働く」ということに理解を深め、来年度は職業体験も予定しております。学習をしていく上で、何のために学ぶか、そして、その知識をどう生かしていくかなどの視点が今後必要になってきます。そうした活動をこれからの進路選択やキャリアについて考えるきっかけにしてもらえたらと思います。

中2 観劇教室

5月2日(木)に中二生は観劇教室に出かけました。午前中は上野公園周辺を班別で自由行動をし、午後は劇団四季のライオンキングを見に行きました。国立西洋美術館に行く生徒、国立科学博物館で過ごす生徒、上野動物園で過ごす生徒など、様々でしたが、大きなトラブルもなく楽しく過ごせた様子でした。新しいクラスになり、なかなかなじめなかった生徒もいるかと思います。しかし、今回の行事で一気に距離が縮まったのではないかと思います。最初に全員で行った科学博物館は理科好きの生徒には大変面白かったようで、一つ一つの展示を食い入るように見ながら、また今度個人的に来て、一日かけてじっくり展示を見たいと言っていました。

観劇教室では多くの生徒が迫力のある歌声と魂のこもったパフォーマンスに興奮、感動し、口々に「来て良かった!」「最初の歌からプロの感じが出ていて感動した。また、舞台が動いたり、照明が変わったりとすごかった。」などと満足げな様子でした。今回の観劇で芸術に対する理解が深め、感性が豊かになったのではないのでしょうか?そして、あの独自性の高い演出に創造性が刺激されたのではと思います。ライオンキングに登場するパペットを生み出したのは、ジュリー・テイモアさんという演出家で、ところどころ演出で使われた影絵や衣装、そして、動きはインドネシアで学んだ「影絵」や「演劇」からインスピレーションを得たそうです。また、劇中に登場するパペットやマスクなどを体に装着している俳優の姿そのものを隠さないなどの「見せる」演出は演劇界に大きな衝撃を与えました。これは舞台上に人がいるにも関わらず、不思議なことに「見えない」という日本の文楽からヒントを得たそうです。何か新しいことを生み出すときにはそのベースとなる何かが必要です。その何かは自分が経験したこと、学んだことがベースとなります。何事も無駄なことはなく、見聞きしたものが何か将来につながるかもしれませんし、何かを生み出すヒントになるかもしれません。

今日初めてミュージカルを観た人もいることでしょう。こうした芸術を見る機会実はたくさんありますが、なかなか自分から見にいかない人もいます。せっかくの機会ですから今後、どんどん芸術に触れていきましょう。心が豊かになりますよ。魂を揺さぶる何かに出会うかもしれません。

